
SECTION 3 練習問題解答例

公共選択 2020: 浅古泰史

- (a) (i) 投票者の最も好ましい政策は 0 と 1 の間に一様分布しているため、中位政策は $1/2$ となる。よって、ホテリング・ダウンスの中位投票者定理より、各選挙区で候補者は $1/2$ を選択する。(ii) 3 人すべての議員の公約は $1/2$ であるため、議会における中位政策も $1/2$ となる。よって、議会では政策 $1/2$ が採用される。
- (b) (i) マイノリティ選挙区において投票者の最も好ましい政策は 0 と $1/3$ の間に一様分布しているため、中位政策は $1/6$ となる。よって、マイノリティ選挙区で候補者は $1/6$ を選択する。一方、その他 2 つの選挙区では投票者の最も好ましい政策は $1/3$ と 1 の間に一様分布しているため、中位政策は $2/3$ となる。よって、これらの選挙区で候補者は $2/3$ を選択する。(ii) 2 人の議員が $2/3$ を公約し、1 人の議員が $1/6$ を公約している。よって、議会における中位政策は $2/3$ となり、議会では政策 $2/3$ が採用される。
- (c) つながらない。理由は以下の通りである。本例ではマイノリティ選挙区を作ることによって、最終的に議会で採用される政策はマイノリティにとって不利なものに変わってしまった。1 つの選挙区では大きな影響を与えられるようになって、残りの 2 つの選挙区ではまったく影響を与えられなくなっている。中位政策は「多数派に支持される政策」ではあるが、マイノリティの投票者の意見もその位置にはしっかりと影響しているため、すべての選挙区でマイノリティが影響を持ちうるように、マイノリティ選挙区を作らない方がよいことになる。本モデルではマイノリティ選挙区に批判的な結果となったが、その是非はいまだに議論の途上であることを付言しておく。